

21世紀の エネルギーを 考える会・みえ

会報

第34号

平成25年4月発行

CONTENTS

ごあいさつ	1
啓発活動	2~6
役員研修	6~7
お知らせ	7
役員名簿・編集後記	8



【亀山公園菖蒲園の花しょうぶ】

ご
あ
い
さ
つ



会長 小菅 弘正

平素より、会員の皆様には、当会の事業活動につきまして格別のご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、我が国は、1970年代のオイルショック以降「脱石油」を掲げ、エネルギーの多様化を進めてまいりました。その結果、省エネや環境技術、代替エネルギーの開発においては目覚ましい成果を上げ、その中でも、原子力発電やLNGの活用では世界最高水準の技術を持つようになりました。これは、エネルギー自給率4%の超少資源国家である我が国が、持続的な経済発展をすべく、また、諸外国に対し足元を見られることの無いよう必死に努力した成果であろうと思われます。

しかしながら、東日本大震災の発生により東京電力福島第一原発事故が起ったことで、世論では脱原発が叫ばれるようになり、代替エネルギーとして太陽光や風力などの再生可能エネルギーが注目を集め、時の政府は特に太陽光発電の導入に新たなルールを作り、その促進を図るに至りました。しかし、太陽光や風力については、天候等に左右されることからベース電源にはなれず、安定した供給確保には応分のバックアップ電源が必要であります。

今、我が国では、ほとんどの原子力発電所が停止していることから、安定した電力を供給するために全国の火力発電所がフル稼働しており、日本のCO₂の排出量も過去最大となっています。

また先月、三重県沖海底の「メタンハイドレート」層で、水とメタンガスの分解に世界で初めて成功したニュースがあり、純国産エネルギーとして期待されていますが、実用化にはまだまだ時間が必要のようです。

そのような中、国では昨年末に新政権が誕生し、前政権のエネルギー政策を大幅に見直す中で新しいエネルギー政策を策定中のようですが、「再生可能エネルギーの課題」や「地球環境への影響」等の正確な情報も発信していただき、超少資源国家である我が国の将来を見据え、持続的発展やエネルギーセキュリティ等も含めた総合的見地から冷静なご決断のもと、我が国にとって最もふさわしい新たなエネルギー基本計画の策定を大いに期待するものであります。

エネルギーや環境問題は、国民一人ひとりが自分自身の問題として捉え、考え、行動することが重要であると考えます。

当会としては、国のエネルギー基本計画が策定された暁には、その内容を踏まえ、「正しい情報発信」による「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

今後も会員の皆様により一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

公開シンポジウム・松阪

公開シンポジウムは「エネルギーのこと 環境問題のことと一緒に考えてみませんか!」～正しく知ろうエネルギーのこと、環境のこと～をテーマに松阪で開催しました。

■ 平成24年11月28日(水) フレックスホテルにて開催 ■ 参加者数:約130名

基調講演

「エネルギー政策と
温暖化政策について」



講師 澤 昭裕 氏
(21世紀政策研究所 研究主幹、
NPO法人国際環境経済研究所 所長)

パネルディスカッション

●コーディネーター

伊藤 達雄 氏 (国立大学法人三重大学 名誉教授)

●コメンテーター

澤 昭裕 氏 (21世紀政策研究所 研究主幹、NPO 法人国際環境経済研究所 所長)

●パネリスト

壁谷勢津子 氏 (経済産業省中部経済産業局 資源エネルギー環境部 電力事業課長)

山川 進 氏 (三重県 雇用経済部長)

小崎 茂生 氏 (株式会社青山高原ウインドファーム 常務取締役総務部長)

高橋 幸照 氏 (水土里ネット立梅用水 事務局長)

辻 保彦 氏 (辻製油株式会社 代表取締役社長)

中村 充孝 氏 (三交不動産株式会社 総合企画室部長・環境エネルギー 事業部長)



基調講演会では、21世紀政策研究所 研究主幹、NPO 法人国際環境経済研究所 所長の澤昭裕氏に「エネルギー政策と温暖化政策について」と題した講演をいただきました。

澤氏は、エネルギーの政策の見直しの論点は?、政策の目的は何か?、「安定供給」責任とコスト負担、安定供給を担うエネルギー産業の編成の3つを挙げ、「東日本大震災で原子力は万能でないとわかった。どの電源、燃料もマイナス点がある。それぞれに安定性があるのか、クリーンなのか、経済負担があるのかと、エネルギー政策は組み合わせを考えながら進めていくことが大事だ」と話しました。また、後半は「エネルギー政策と再生可能エネルギーの戦力化」をテーマとしたパネルディスカッションでは、伊藤達雄名誉教授をコーディネーターとして、県や事業者らが取り組みを説明しました。壁谷勢津子氏は、これまでのエネルギー政策と再生可能エネルギーの固定買取制度について説明し、山川進氏は、県の新エネルギービジョンを解説しました。また、小崎茂生氏は、風車を40基新設する計画を説明し、高橋幸照氏は、電力の地域活性化の取り組みを話しました。辻保彦氏は、木質バイオマス熱事業を紹介し、調達コストと熱需要の確保など課題について話しました。中村充孝氏は、年間総発電量600万キロワット時の太陽光発電能力など、伊勢市二見にメガソーラーを計画していると説明しました。

地区別講演会

—— 当会が主催する地区別講演会を県内の4地区で開催しました。 ——

志摩

日 時:平成24年12月6日(木)
会 場:志摩市商工会館
講 師:神津 カンナ 氏 (作家)
テ ー マ:「しなやかに^{いま}現在を生きる」
～身近なエネルギーと環境問題～
参加者数:約60名



神津氏は、エネルギーは、時代と共にゆっくりと変わってきたと話し、日常生活でも色んな角度から物を見て、考えてみるのが大事と呼びかけました。

川越

日 時:平成24年12月14日(金)
会 場:朝明商工会館
講 師:神津 カンナ 氏 (作家)
テ ー マ:「しなやかに^{いま}現在を生きる」
～身近なエネルギーと環境問題～
参加者数:約120名

神津氏は、再生可能エネルギーの研究開発は重要な武器になる一方、商業化にはまだまだ時間とコストがかかると指摘。自分の判断基準を持つことが、変化していく時代には大事と話しました。



津

日 時:平成24年12月21日(金)
会 場:津市芸濃総合文化センター
講 師:竹内 純子 氏 (国際環境経済研究所 主席研究員)
テ ー マ:「ドイツに学ぶ環境・エネルギー政策の今後」
～再生可能エネルギーの実力は!?～
参加者数:約90名



エネルギー政策には経済性や安定供給、環境に安全性を加えたバランスが重要で、国の情勢や規模、産業構造などで理想型とは違うと指摘。電気料金の上昇は低所得層にダメージを与え、産業の空洞化を招くとして「どんな社会にしたいのか、描いていく必要がある」と話しました。

名張

日 時：平成 25 年 2 月 14 日(木)
会 場：名張産業振興センター（アスパア）
講 師：竹内 純子 氏（国際環境経済研究所
 主席研究員）
テ ー マ：「ドイツに学ぶ環境・エネルギー政策の今後」
 ～再生可能エネルギーの実力は!?～
参加者数：約 110 名

国内でも脱原発による燃料費増大と再生可能エネルギー導入で、電気料金は近い将来、上昇すると予想し、再生可能エネルギーの技術開発に向けた政府の適切な支援や、欧米に比べ太陽光発電の買取価格を引き下げる必要があると強調しました。



公募見学会

県民を対象に当会初となる公募見学会を開催しました。

開 催 日 平成 24 年 11 月 10 日(土)
見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ(太陽光発電)、
 中部電力㈱碧南火力発電所(バイオマス発電)、JR 東海リニア・鉄道館
参加者数 55 名

当会は、東日本大震災以降注目されている再生可能エネルギーについて、県民に正しいご理解をいただこうとの趣旨で、公募見学会を開催しました。

当日は、まず愛知県知多郡武豊町竜宮の中部電力㈱武豊火力発電所構内にある太陽光発電所「メガソーラーたけとよ」を見学し、中部地域最大級の約 39,000 枚の太陽光パネルを展望台から一望した後、太陽光発電の仕組みや低炭素社会の実現に向けた取り組みなどを学びました。

永崎武豊火力発電所長は、「電気はためることができないため、長所短所を補うバランスのとれた最適な電源の組み合わせが大事」と話しました。

その後は、国内最大級の出力 410 万キロワットを誇り、一部バイオマス混焼発電を実施している石灰火力の中部電力㈱碧南火力発電所を見学し、名古屋市港区金城ふ頭にある JR 東海リニア・鉄道館を見学。エネルギーの施設を目の前に参加者から、たくさん質問があり、有意義な見学会となりました。



講演会(共催)

当会より講師派遣等の協力をさせていただきました。

平成24年度 四日市商工会議所優良勤労者表彰式

開 催 日：平成 24 年 11 月 27 日(火)
会 場：四日市商工会議所 1F 会議所ホール
講 師：橋本 大二郎 氏（元高知県知事）
テ ー マ：「家族から教えられたもの」
参加者数：約 220 名



平成24年度 三重県新生活運動推進協議会 省資源・省エネルギー大会

開 催 日：平成 25 年 2 月 12 日(火)
会 場：ポルタ久居市民ふれあいセンター
講 師：大谷 まさみ 氏（中部電力株式会社 本店広報部 エネルギー・
 環境広報グループ スタッフ副長）
テ ー マ：「一緒に考えましょう！資源の少ない国に住む私たちの暮らしの明日」
参加者数：約 40 名



三重県商工会女性部連合会 幹部研修会

開 催 日：平成 25 年 3 月 22 日(金)
会 場：華王殿
講 師：澤 昭裕 氏（21 世紀政策研究所 研究主幹、NPO 法人国際環境経済研究所 所長）
テ ー マ：「今、何を議論すべきなのか？」
 ～エネルギー政策と温暖化政策の再検討～
参加者数：約 90 名



見学会(共催)

—— 再生可能エネルギー施設等を見学いただき、今後のエネルギーのあり方について考えていただきました。——

三重県新生活運動推進協議会

開催日 平成24年9月27日(木)

見学場所 中部電力(株)川越火力発電所、中部電力(株)メガソーラーたけとよ

参加者数 58名

エネルギー施設見学会を終えて

鳥羽市生活学校 代表 中村 幸子 氏

9月27日(木) 第1便鳥羽発7:10 久居駅前で久居会員を乗せ一路川越火力発電所へと走って行きました。第2便白子駅発9:00、同じく鈴鹿市生活学校会員を乗せ出発です。鳥羽、久居、鈴鹿、総勢58名の参加で、10:00に川越電力館、川越火力発電所へとやってまいりました。

川越電力館テラ46、外観の地球儀はとってもインパクトのあるもので、その中にテーマパーク仕立ての展示館がはいっていました。テレビのCMで見ると同じで、見て触って実感し遊びながら学べる施設でした。一番上の部屋からは火力発電所のLNGタンクから始まりボイラータービン発電機、変圧器へと施設の展望ができました。

次は川越火力発電所内部へと案内していただきました。まず映像で説明してから、タービン発電機内を見学しました。機内はとても暑く長くいられるところではありません。こういう機内をメインコントロールセンターで職員達が日夜調整しながら事故のない様見守っているのでしょう。

発電に必要な燃料はLNGといって液化天然ガスです。産出地で天然ガスを液化する時にガス中のちり、硫黄分などの不燃物を取り除いているためばいじんや硫酸化物の発生がなくクリーンな状態で発電されるそうです。そしてLNGは毎週1回海外からタンカー船で運ばれLNGセンターに貯蔵されガス化され海底トンネルにあるガス導管で発電所に送られます。発電所のまわりには排熱エネルギーを利用している温水プールがあったり、24時間開放の釣り桟橋、緑地公園が整備されたりしています。

次の見学地は武豊にありますメガソーラーたけとよ武豊火力発電所です。浜岡原子力発電所の停止によってこの発電所がもう一度復活したのです。再稼働にあたって特に雨水の浸透による腐食タービン起動するまでの詰まりトラブル等いく度か目の前が真っ暗になるような事がいろいろあったそうです。しかしみんなが力をあわせてようやく23年の4月から試して、今年の夏は無理のない範囲で節電をしてもらい乗り切ることができたそうです。

次は今一番期待を寄せている太陽光発電メガソーラーたけとよです。それはそれは広大な敷地に太陽光パネルを平地に20度の角度をつけて39,168枚置いてありました。最高発電出力7,500kWとありますが、この日はとても良いお天気で非常に高い発電出力を出していると思っていましたが、1/3程の力しかありませんでした。だからといって自然エネルギーを無駄にしているもったいないです。これからも工夫して自然エネルギー発電を推進して欲しいものです。東京ドーム3ヶ分の敷地面積が住宅であったり工場であったりスーパーであったりと建物の屋根の太陽光パネルであったらどんなにすばらしい街ができるか考えたら未来はちょっと明るいかな!!

今日1日施設見学会を終えてあらためて電気のない生活は考えられないと同時に、自分達でできる省エネルギー生活をもう一度考えるべきだと思いました。21世紀のエネルギーを考える会・みえの世話人様ありがとうございました。

三重県地域婦人団体連絡協議会

開催日 平成24年10月2日(火)～3日(水)

見学場所 1日目 中部電力(株)メガソーラーたけとよ

2日目 中部電力(株)浜岡原子力発電所、静岡県地震防災センター

参加者数 29名

浜岡原子力発電所を視察して

三重県地域婦人団体連絡協議会 会長 梶田 淑子 氏

去る10月2、3日の二日間にわたっての研修は非常に勉強になりました。

まずは、1日目のメガソーラーたけとよ太陽光発電の仕組みを実際に現場を見ながら勉強させていただき、電気がつくられていく課程や、現場で働く人の苦勞がよくわかりました。

2日目の浜岡原子力発電所では、いかに安全確保に知恵と力を入れて日々のお仕事に取り組まれている様子や、東北のように大津波が起こった時の対策としての建設中の防波壁をまじかに見せていただきました。

また、原子炉建屋はピラミッドのような安定した構造で地震の揺れにも強く、比較的小さなゆれでも自動停止するようになっていることや、浸水防止対策についても敷地内浸水…次に建屋内浸水を防ぐ…緊急事態の対策の強化として、冷やす機能の確保「注水、除熱、電源供給」の3つの働きにたいする代替手段を講じて冷やす機能を確保しているなど徹底した安全対策に取り組んでいることなどを実際に目でみて知ったとき…福島県の原子炉の安全対策の実態に疑問を感じました。…

だれもが、太陽光や火力、水力など自然エネルギーに代えて少しの危険もないようにしたいと思っていることなのでしょう…がしかし、今、完全に原子力を廃止すれば…病院の集中治療室は?…大手企業の工場は?…交通手段は?…などなど…一般家庭においても人間みんながこの慣れきった生活をいきなり大幅な電気削減の生活に変えることができるのでしょうか?…自然エネルギー確保のいち早い取り組みを進めて、完璧なものにして原子力から自然エネルギーへと段階を踏んで移行していき、近



い将来、原子力に頼らない時代がくることを期待いたします。

今回の研修で、日頃私たちが利用している電気がどのように作られているのか、又、その発電所で電力会社が努力されている低炭素実現に向けた取り組みや、太陽光発電の仕組み、津波対策・環境保全に対する事業活動など、参加者が1人1人見て、聞いて学ぶことができ、有意義な研修をさせていただきありがとうございました。

終わりに、21世紀のエネルギーを考える会・みえさまのご協力のおかげと会員共々感謝申し上げましてお礼のご挨拶とさせていただきます。

四日市臨海部企業懇話会

開催日 平成24年11月1日(木)

見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ、中部電力㈱碧南火力発電所

参加者数 26名



伊勢商工会議所 環境委員会・産業振興委員会

開催日 平成24年11月15日(木)

見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ

参加者数 16名



四日市商工会議所 化学・石油部会

開催日 平成24年11月29日(木)

見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ

参加者数 18名

視察会に参加して

四日市商工会議所事務局

四日市商工会議所 化学・石油部会では、当地域における企業の立地環境改善に向け、様々な検討や視察研修会を行っておりますが、この度、「メガソーラーたけとよ」および「武豊火力発電所」を視察させて頂きました。当日は、メガソーラーの現状や今後の普及に向けた課題、また、震災以降の武豊火力発電所が担う重要性や再稼働に至った経緯などを説明していただきました。参加者一同、電力供給の現状及び、再生可能エネルギーについて、正しく理解を深めることができ、より安定的な産業活動を続けていく上でエネルギー供給がどうあるべきかを考えさせられる貴重な1日となりました。



木曽岬町商工会

開催日 平成25年1月16日(水)

見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ

参加者数 26名



楠町商工会

開催日 平成25年3月5日(火)

見学場所 大学共同利用機関法人 自然化学研究機構 核融合科学研究所

参加者数 22名



東員町商工会

開催日 平成25年3月9日(土)

見学場所 中部電力㈱メガソーラーたけとよ

参加者数 26名

『メガソーラー・たけとよ』の見学を終えて

東員町商工会 会長 伊藤 恵智 氏

日本全体でエネルギーの厳しい需給状況の継続が懸念される中、太陽光発電は、開発がすすめられているメタンハイドレートと共に原子力発電に変わる次世代のエネルギーです。安全で安心



啓発活動

なエネルギー源として期待されている発電出力 7500 キロワットの中部地域最大級の大規模太陽光発電所で、ナゴヤドーム 3 個分の広大な敷地に整然と約 39000 枚の太陽光パネルが並ぶ展望台からの眺めは、壮大で目を見張るものがありました。太陽の自然の恵みを活かし、将来、各家庭で自家発電できるようになれば、エネルギーも外国に頼らず、自給自足の時代が来るのか？期待が膨らむ。

コーポレートスローガンの「時代の先へ。一人のそばへ。」やイメージ動画も素晴らしく、電力の安定供給に向けた取り組みの姿勢にも感動しました。また、見学コースでの永崎所長様のプレゼンの素晴らしさにも感動しました。

わかりやすく、丁寧且つ、楽しく。永崎所長自作の模型を使っでの説明は、我が国の将来のエネルギー確保への希望と安心感を持って聞くことが出来ました。訪れる人々が今後も理解を深め、期待と安心を感じて見学が出来るよう、今後益々のご活躍を期待したいと思います。

志摩市商工会 建設部会

開催日 平成 25 年 3 月 24 日(日)～25 日(月)

見学場所 1 日目 中部電力(株)浜岡原子力発電所
2 日目 中部電力(株)メガソーラーたけとよ

参加者数 11 名

視察研修会に参加して

志摩市商工会事務局

今回は、建設部会の視察研修として「浜岡原子力発電所」と「武豊火力発電所およびメガソーラーたけとよ」を視察させて頂きました。

「浜岡原子力発電所」では入館までの厳しいチェックにまず驚き、テレビでしか見たことのなかった燃料プールもガラス越しに見学させて頂きました。当日は日曜日ということもあってか、作業員の姿はなかったのですが、その壮大な設備と目に見えない放射能の脅威を間近に感じることができました。また、津波対策の防波壁の建設現場については、建設部会ということもあり様々な質問が飛び交いましたが、適切にご回答を頂きました。福島第一原発の事故後の地震・津波対策につきましては、あらゆる状況を想定し対策を講じられているなかで、国の基準が見直される度に更なる対策が必要となるなど、絶えず努力している姿勢が伺いしました。

「メガソーラーたけとよ」では、広大な敷地のなかにソーラーパネルが 39,000 枚も並ぶ姿は圧巻で、原発に依存しない再生可能エネルギーの活用に大いに期待したいところですが、自然環境に大きく左右され、安定的な発電量が望めないなどのリスク面のお話、またそれを補完する火力発電所の発電量調整のための作業の難しさなどのお話を聞き、普段何げなく使っている電気エネルギーについてあらためて考える機会になりました。



役員研修

当会役員を対象に、エネルギー・環境問題に関するご理解をさらに深めていただくことを目的に懇話会や視察会を開催しました。

第7回役員懇話会

経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部 電源開発調整官の松岡孝氏に、「エネルギー政策の見直しについて」と題して、ご講演いただきました。

開催日 平成 24 年 10 月 1 日(月)

会場 ホテルグリーンパーク津

参加者 34 名



松岡氏は、検証するべきことは、国際的なエネルギー、地球環境をめぐる情勢、技術革新の動向、そして国民の信認等を把握すること」と述べました。今後は、7 月に国民的議論を行い、8 月に『革新的エネルギー・環境戦略』を決定すると説明しました。

第8回役員懇話会

(財)日本エネルギー経済研究所 常務理事の小山堅氏に、「国際エネルギー情勢と日本の課題」と題して、ご講演いただきました。

開催日 平成 25 年 2 月 15 日(金)

会場 アスト津

参加者 27 名



小山氏は、アジアを中心に増大する世界のエネルギー需要とその影響などを説明し、「東日本大震災にともなう原子力発電所の事故にどう対応するか、また、新政権で経済を立てなおすためには、エネルギーをどうするかという問題がある。中長期問題に関して、冷静で客観的な議論と対応策が重要」と話しました。



第5回役員視察会

開催日 平成25年3月14日(木)～15日(金)

見学場所 1日目 バイオスタウン真庭(岡山県真庭市)

2日目 大型放射光施設「SPring-8」(兵庫県佐用郡佐用町)

参加者 19名

平成25年3月14日(木)～15日(金)に、バイオマスタウン真庭、大型放射光施設「SPring-8(スプリングエイト)」を小菅会長はじめ19名が視察しました。

初日は、社団法人真庭観光連盟主催のバイオマスツアーに参加し、真庭市内の施設3箇所を視察しました。銘建工業株式会社では、化石燃料の代替燃料として注目されている木質ペレットを年間1500～6000t(トン)製造しており、木質専焼のバイオマス発電施設を視察しました。バイオマス発電によって同工場内のエネルギーをまかない、余った電力を販売しているとのことでした。真庭バイオマス集積基地では、林地残材や製材所で発生する端材や、樹皮を活用する工程を視察、真庭市役所本庁舎ではバイオマスボイラ施設を視察しました。太陽光により発電された電力を庁舎内の冷暖房などに活用していました。

翌日は、播磨科学公園都市内に位置する大型放射光施設「SPring-8(スプリングエイト)」とX線自由電子レーザー施設「SACLA(さくら)」を視察しました。「SPring-8」は、太陽の100億倍もの明るさに達する「放射光」という光を使って、物質の原子・分子レベルでの形や機能を調べる施設として活用されており、「SACLA」は、「SPring-8」の10億倍の明るさのX線のレーザーを発生させて、それを使って物質の極めて早い動きや変化の仕組みを原子レベルで解明する研究施設でした。

二日間の視察を通して、自然環境と人類の存続といった課題に大きく貢献していることを知ることができました。



お知らせ



平成25年度 総会

平成25年5月30日(木)

総会 ▶ 13時00分から14時00分

記念講演会 ▶ 14時15分から15時45分

会場：三重県総合文化センター
多目的ホール(フレンテみえ1F)

講師：櫻井 治男 氏(皇學館大学教授)

テーマ：三重の文化的エネルギーをたずねて
ー伊勢神宮の式年遷宮を迎えてー



当会の活動をより多くの県民の皆さま方に知っていただくためレディオキューブFM三重で当会のコマーシャルを放送しております。当会の活動理念である「低炭素社会の実現」の重要性を説明したり、当会行事の案内を行ったりしています。ぜひお聴きになってください。

放送時間 ▶

月曜日

8:25～8:27

木曜日

17:48～17:50

土・日曜日

毎月5回放送

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。

21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。

役員名簿・編集後記

役員等一覧（平成25年2月1日現在）

■ 会長

小 菅 弘 正（四日市商工会議所 顧問）

■ 副会長

竹 林 武 一（三重県商工会議所連合会 会長）
 藤 田 正 美（三重県商工会連合会 会長）
 佐久間 裕 之（三重県中小企業団体中央会 会長）
 岡 本 直 之（三重県経営者協会 会長）
 藤 原 義 治（三重友愛連絡会 議長）
 井 坂 紀 之（エネルギー問題三重県研究会 代表世話人）

■ 理事

齋 藤 彰 一（三重県商工会議所連合会 副会長）
 上 島 憲 一（同上）
 中 井 均 一（同上）
 山 本 忠 之（同上）
 西 村 憲 一（同上）
 川 口 佳 秀（同上）
 奈 須 庄 平（四日市商工会議所 専務理事）
 安 藤 邦 晃（三重県商工会連合会 副会長）
 服 部 基 恒（同上）
 辻 丈 昭（同上）
 坂 下 啓 登（同上）
 藤 村 達 司（同上）
 竹 尾 博 光（三重県中小企業団体中央会 副会長）
 三 林 憲 忠（同上）
 向 井 弘 光（同上）
 黄 瀬 稔 一（同上）
 菊 川 靖 之（三重県経営者協会 副会長）

■ 事務総長

奈 須 庄 平（四日市商工会議所 専務理事）

■ 事務局長

服 部 勝（21世紀のエネルギーを考える会・みえ）

■ 運営幹事

井ノ口 輔 胖（三重県商工会議所連合会 専務理事）
 佐々木 史 郎（三重県商工会連合会 専務理事）
 伊 藤 良 夫（三重県中小企業団体中央会 事務局長）
 横 田 正 典（三重県経営者協会 専務理事）
 長谷川 善 樹（電機連合三重地方協議会 事務局長）
 竹 内 孝 昇（電力総連三重県電力総連 執行委員）

■ 理事

樋 田 昭 和（三重県経営者協会 副会長）
 馬 場 嘉 朗（同上）
 小 林 長 久（同上）
 高 崎 征 輝（同上）
 稲 葉 邦 成（同上）
 浅 野 啓 介（電機連合三重地方協議会 副議長）
 法 所 誠 一（自動車総連三重地方協議会 議長）
 木 村 敬 明（UAゼンセン三重県支部運営評議会 副議長）
 長谷川 誠 一（JEC連合三重地方連絡会 副議長）
 伊 藤 圭 一（日産労連三重地方協議会 議長）
 宮 崎 三代橋（交通労連中部地方総支部三重県支部 支部長）
 東 浦 敏 久（基幹労連三重県本部 委員長）
 広 垣 和 彦（電力総連三重県電力総連 会長）
 岩 橋 邦 晃（公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会 会長）
 大 川 妙 子（三重県地域婦人団体連絡協議会 顧問）
 伊 藤 幸 子（三重県新生活運動推進協議会 会長）
 青 木 重 孝（三重県医師会 会長）
 山 下 晃 一（一般社団法人三重県建設業協会 会長）
 瀬 河 英 雄（社団法人三重県建築士会 会長）
 鯉 江 盈 一（三重県商店街振興組合連合会 理事長）
 渡 邊 一 雄（三重県電器商業組合 理事長）
 楠 修 次（三重県電気工業事業工業組合 理事長）
 伊 藤 達 雄（都市環境ゼミナール 会長）

■ 監事

森 岡 峯 一（三重県商工会議所連合会 監事）
 堀 博 敏（三重県一般労働組合同盟 書記長）

■ 広報委員長

長谷川 善 樹（電機連合三重地方協議会 事務局長）

■ 広報委員

井ノ口 輔 胖（三重県商工会議所連合会 専務理事）
 古 井 和 典（三重県商工会連合会 事務局長）
 伊 藤 良 夫（三重県中小企業団体中央会 事務局長）
 横 田 正 典（三重県経営者協会 専務理事）
 竹 内 孝 昇（電力総連三重県電力総連 執行委員）

編 集 後 記



事務局長 服部 勝

今号は、平成24年度下期に実施した事業の活動報告を中心に編集いたしました。下期においては、今、世間で話題の多い「再生可能エネルギー」を正しくご理解いただくという趣旨で、特に、太陽光に焦点を当てた公募見学会、公開シンポジウム、講演会を、更には、共催事業としての講演会、見学会等も開催させていただきました。

多くの皆様方にご出席いただき、そして、再生可能エネルギー等についてのご理解を賜り心からお礼を申し上げます。

また、当会の活動に関する会員の皆様からのご意見を随時承っております。

今後の活動の参考にさせていただきますので、お気軽に事務局までお寄せ願います。



「みえ」のイニシャル「M」と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな「M」で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004
 津市栄町3丁目248番地
 きりんセカンドビル302号
 TEL&FAX(059)229-3790
 HP▶ <http://www.e-mie21.com/>